

本紙は各校PTAに「校長・教頭用」

「PTA会長・役員・広報委員用」「事務局員用」として配布しています。

令和4年度日本PTA年次表彰式

文部科学省・公益社団法人日本PTA全国協議会

第44回 全国小・中学校PTA広報紙コンクール表彰式

2023年  
新春号



写真は金田会長と受賞者の方々

令和4年度

日本PTA年次表彰式を開催!

令和4年度11月18日(金)ホテルニューオータニにて



発行所  
〒107-0052  
東京都港区赤坂7丁目  
5番38号  
公益社団法人  
日本PTA全国協議会  
発行人 金田 淳  
電話 03(5545)7151  
FAX 03(5545)7152  
ホームページアドレス  
<https://www.nippon-pta.or.jp/>



このQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただきますと、日本PTA全国協議会のホームページにアクセスできます。

企画編集協力  
日本教育新聞社

## 綱 領

本会は、教育を本旨とし、特定の政党や宗教に偏ることなく、小学校および中学校におけるPTA活動を通して、我が国における社会教育および家庭教育の充実に努めるとともに、家庭、学校、地域の連携を深め、子どもたちの健全育成と福祉の増進を図り、もって社会の発展に寄与する。

## 主な内容

### 1・2面

○令和4年度 日本PTA年次表彰式を開催!

### 3面

○第70回 日本PTA全国研究大会 山形大会  
○第54回 日本PTA東北ブロック研究大会

### 4・5面

○日本PTAブロック研究大会が7ブロックの各地で開催!

### 6・7面

○スポーツ庁・中学校・PTA 新春座談会

### 8面

○各委員ならびに諮問会議における情報について

## 永岡桂子文部科学大臣、高橋克法参議院文教科学委員会委員長が来賓として出席

令和4年度年次表彰式を11月18日、東京・千代田区のホテルニューオータニで開催いたしました。来賓に永岡桂子文部科学大臣と参議院文教科学委員会委員長の高橋克法氏を迎え盛大に開催された表彰式では、PTA活動の質向上および活性化のため、公益社団法人日本PTA全国協議会の目的に沿って顕著な業績を上げたPTAに対し、文部科学大臣表彰として102団体、日本PTA全国協議会会長表彰として99団体と223人の個人に表彰状が授与されました。

併せて開催された第44回全国小・中学校PTA広報紙コンクール表彰式では、義務教育学校のPTAを含め、3345点の応募から45団体に「文部科学大臣賞」をはじめとする表彰状が授与されました。

## 祝辞

永岡 桂子 文部科学大臣



本日は令和4年度日本PTA全国協議会年次表彰式が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

今回、表彰を受けられる皆様におかれましては、コロナの影響が長期化する中ではありますが大変なご苦労と創意工夫の

下PTA活動にご尽力をされ、その振興に多大な貢献をされました。これまでの功績に対し、深く敬意を表します。

子供たちがこれからの予測困難な時代を生き抜き、持続可能な社会のつくり手となるためには、PTAをはじめ学校・家庭・地域が連携・協働して一丸となって子供を育てることが重要

学校・家庭・地域が連携・協働して一丸となって子供を育てることが重要

な時代を生き抜き、持続可能な社会のつくり手となるためには、PTAをはじめ学校・家庭・地域が連携・協働して一丸となって子供を育てることが重要です。

皆様方におかれましては、学業にいそむ子供たちに寄り添うPTA活動のリーダーとして、コミュニティ・スクールや地域学校

## あいさつ

公益社団法人日本PTA全国協議会  
金田 淳 会長



決して学びを止めることなく  
歩み続けていきたい

この度表彰を受けた優良PTA文部科学大臣表彰の皆様、第44回全国小・中学校PTA広報紙コンクールに入賞された皆様そして日本PTA全国協議会会長表彰の皆様、誠にありがとうございます。

感染症の影響を受けまして私たちPTA活動は大きく制限をされてきましたけれども、このような状況の中にあっても何ができるのかを真剣に考えながら歩みを止めずにさまざまな活動を行ってまいりました。この年次表彰式においても、規模を縮小したり祝賀会を中止したりはしましたけれども、表彰事業を中止することなく実施しておりまして、本年度の開催におきましてはPTAで作成しておりますPTA活動における新型コロナウイルス感染症対応ガイド第3版に対応しての開催とさせていただきます。

この2年間、新型コロナウイルスさまざまな学校で教育課程を編成する際

ともに、活動の参考となる情報の発信等に努めていただくとお願い致します。

最後に、日本PTA全国協議会をますますのご発展と、本日表彰を受けられた皆様をはじめ関係者の皆様の一層のご活躍をご祈念し、私からの心からの言葉をさせていただきます。

の基準であります学習指導要領が令和2年度から小学校、令和3年度から中学校で本格実施となっております。

今回の改訂に際しての思いというものがしっかりと書かれておりまして、そこには「これからの社会はどんなに変化して予測困難な時代になっても自ら課題を見つけ自ら学び、自ら考え判断して行動し、それぞ

に思い描く幸せを実現してほしい」といって最後に「生きる力」学びのその先へと書かれております。

本日は、ご参集の皆様、ますますのご健康と子供たちの明るい未来を祈念して、あいさつとさせていただきます。

| 令和4年度 優良PTA文部科学大臣表彰 被表彰団体 |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| 北 海 道                     | 千歳市立千歳中学校保護者と教職員の会      |
|                           | 北海道教育大学附属特別支援学校PTA      |
|                           | 長沼町立長沼小学校PTA            |
|                           | 札幌市立円山小学校保護者と先生の会       |
| 青 森 県                     | 札幌市立北部小学校保護者と先生の会       |
|                           | 藤崎町立藤崎小学校保護者と先生の会       |
| 岩 手 県                     | 田子町立上郷小学校父母と教師の会        |
|                           | 奥中山小学校PTA               |
| 宮 城 県                     | 七ツ森小学校PTA               |
|                           | 栗原市立築館中学校PTA            |
|                           | 仙台市立遠見塚小学校父母教師会         |
| 秋 田 県                     | 仙台市立南光台中学校父母教師会         |
|                           | 湯沢市立山田小学校PTA            |
| 山 形 県                     | 井川町立井川義務教育学校PTA         |
|                           | 西川町立西川小学校PTA            |
| 福 島 県                     | 米沢市立第五中学校PTA            |
|                           | 白河市立東北中学校PTA            |
| 茨 城 県                     | 新地町立駒ヶ嶺小学校父母と教師の会       |
|                           | 日立市立豊浦小学校PTA            |
| 群 馬 県                     | 神栖市立波崎西小学校PTA           |
|                           | 藤岡市立鬼石中学校PTA            |
| 埼 玉 県                     | 沼田市立白沢小中学校PTA           |
|                           | さいたま市立大谷小学校保護者と教職員の会    |
| 千 葉 県                     | さいたま市立善前小学校PTA[みどりの会]   |
|                           | 熊谷市立石原小学校PTA            |
| 東 京 都                     | 川口市立飯仲小学校PTA            |
|                           | 八千代市立勝田台小学校PTA          |
| 神奈川県                      | 鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校PTA          |
|                           | 茂原市立豊田小学校PTA            |
| 新 潟 県                     | 袖ヶ浦市立奈良輪小学校PTA          |
|                           | 世田谷区立池之上小学校PTA          |
| 富 山 県                     | 足立区立大谷田小学校PTA           |
|                           | 東京都立久我山青光学園PTA          |
| 石 川 県                     | 八王子市立由井中学校PTA           |
|                           | 中央区立常盤学校みどり会            |
| 福 井 県                     | 東大和市立第四小学校PTA本部         |
|                           | 横浜市立東汲小学校PTA            |
| 山 梨 県                     | 川崎市立新城小学校PTA(保護者と教職員の会) |
|                           | 川崎市立生田小学校PTA            |
| 長 野 県                     | 厚木市立依知南小学校PTA           |
|                           | 神奈川県立小田原養護学校PTA         |
| 岐 阜 県                     | 柏崎市立田尻小学校PTA            |
|                           | 糸魚川市立糸魚川中学校PTA          |
| 愛 知 県                     | 新潟市立荻原小学校PTA            |
|                           | 立山町立立山北部小学校教育誠会         |
| 三 重 県                     | 黒部市立明峰中学校PTA            |
|                           | 小松市立那谷小学校育友会            |
| 京 都 府                     | 白山市立美川中学校育友会            |
|                           | 大野市開成中学校PTA             |
| 大 阪 府                     | 若狭町立熊川小学校PTA            |
|                           | 北杜市立小淵沢小学校PTA           |
| 兵 庫 県                     | 富士吉田市立吉田中学校PTA          |
|                           | 上田市立第二中学校PTA            |
| 奈 良 県                     | 長野市立若槻小学校PTA            |
|                           | 郡上市立八幡小学校PTA            |
| 和歌山県                      | 笠松町立笠松中学校PTA            |
|                           | 半田市立亀崎中学校父母と教師の会        |
| 鳥 取 県                     | 刈谷市立平成小学校PTA            |
|                           | 蒲郡市立三谷小学校父母教師会          |
| 島 根 県                     | 名古屋市立平和が丘小学校PTA         |
|                           | 多気町立勢和小学校PTA            |
| 岡 山 県                     | 京都市立下京中学校PTA            |
|                           | 京都市立東総合支援学校PTA          |
| 広 島 県                     | 京都府立向日が丘支援学校PTA         |
|                           | 八幡市立橋本小学校PTA            |
| 山 口 県                     | 舞鶴市立倉梯第二小学校PTA          |
|                           | 大阪市立三国小学校PTA            |
| 香 川 県                     | 守口市立梶中学校PTA             |
|                           | 丹波市立和田中学校PTA            |
| 愛 媛 県                     | 神戸市立丸山中学校PTA            |
|                           | 大和高田市立菅原小学校PTA          |
| 福 岡 県                     | 和歌山県立上富田町立岩田小学校PTA      |
|                           | 琴浦町立赤碕中学校PTA            |
| 佐 賀 県                     | 大田市立高山小学校PTA            |
|                           | 岡山市立大元小学校PTA            |
| 長 崎 県                     | 岡山市立鶴山小学校PTA            |
|                           | 津山市立哲西中学校PTA            |
| 熊 本 県                     | 広島市立春日野小学校PTA           |
|                           | 尾道市立高須小学校PTA            |
| 宮 崎 県                     | 東広島市立小谷小学校PTA           |
|                           | 神石高原町立豊松小学校PTA          |
| 鹿 児 島 県                   | 周南市立須磨小学校PTA            |
|                           | 萩市立萩東中学校PTA             |
| 沖 縄 県                     | 綾川町立羽床小学校PTA・育成会        |
|                           | 松山市立石井東小学校PTA           |
| 神奈川県                      | 小富士小学校PTA               |
|                           | 朝倉市立福田小学校父母教師会          |
| 静岡県                       | 朝倉市立甘木中学校PTA            |
|                           | 豊前市立宇島小学校PTA            |
| 長野県                       | 福岡市立高取小学校父母教師会          |
|                           | 福岡市立立花中学校PTA            |
| 岐阜県                       | 築上町立椎田中学校PTA            |
|                           | 佐賀県立中原特別支援学校本校舎PTA      |
| 愛知県                       | 諫早市立真城小学校育友会            |
|                           | 西海市立西海小学校PTA            |
| 三重県                       | 玉名市立滑石小学校PTA            |
|                           | 熊本市立城北小学校PTA            |
| 京都府                       | 宇土市立宇土小学校PTA            |
|                           | 八代市立東陽小学校PTA            |
| 大阪府                       | 諸塚村立荒谷小学校PTA            |
|                           | 鹿児島市立武岡台小学校PTA          |
| 兵庫県                       | 瀬戸内町立薩川小学校PTA           |
|                           | 豊見城市立長嶺中学校PTA           |

第44回全国小・中学校PTA広報紙コンクール 受賞団体一覧

- 日本PTA全国協議会 会長賞  
小学校PTAの部  
千葉県松戸市立小金小学校PTA  
福井県福井市立円山小学校PTA  
長崎県諫早市立飯盛東小学校PTA  
中学校PTAの部  
福島県福島市立飯野中学校父母と教師の会  
静岡市立西奈中学校PTA  
富山大学人間発達科学部附属中学校PTA

- 日本教育新聞社 社長賞  
小学校PTAの部

- 神奈川県中部大磯町立大磯小学校PTA  
静岡県静岡市立西豊田小学校PTA  
福岡県宇美町立校原小学校PTA  
中学校PTAの部  
青森県八戸市立根城中学校父母と教師の会  
長崎県南島原市立口之津中学校育友会  
鹿児島県西之表市立種子島中学校PTA

- 教育家庭新聞社 社長賞  
小学校PTAの部  
佐賀県みやき町立中原小学校PTA  
沖縄県那覇市立城南小学校PTA  
中学校PTAの部  
福島県福島市立平野中学校PTA  
長崎県佐世保市立早岐中学校PTA

- 企画賞  
小学校PTAの部  
北九州市立三郎丸小学校PTA  
中学校PTAの部  
福岡県大牟田市立歴木中学校PTA

- 写真賞  
小学校PTAの部  
北海道北見市立南小学校PTA  
中学校PTAの部  
沖縄県那覇市立松島中学校PTA

- レイアウト賞  
小学校PTAの部  
青森県八戸市立白山台小学校父母と教師の会

「子供たちの健やかな成長」その一点でPTA活動に取り組む皆さんに感謝



参議院文教科学委員会 高橋克法 委員長

私の出身は金田会長と同じ栃木県です。皆様に心からお礼を申し上げなければならぬと思います。やってみよう。子供たちの健やかな成長」その一点だけを願って、決して楽ではないPTA活動だと思っています。究極のボランティア、奉仕活動だと私は認識しておられますので、そのことに汗をかき時間を割いていたにいたる皆様にお礼を申し上げます。

期的にウィークデーの昼間に集まって広報紙を作るための作業を行っていくという作業を誰もやりたがらないので、広報委員会を引き受ける人が誰もいない。以前もそのような状態でしたので、しょうがないから「くじ引き」で選んでいたんです。そして、私がPTA会長の時にも「なり手」がいなかったため「くじ引き」で、との意見が出ました。

しかし、「子供たちの健やかな成長」を願って私たちは活動しているのに「くじ引き」で広報紙を引き受けることになってしまったこと、「大変だ」という思いが必ず、態度として出てしまいが、そんな保護者の姿を子どもたちが見たら教育上良くないのではないか、子供たちにとってマイナスなことをしてはいけなく、強く感じました。そういう思いから、今年には広報紙は作らない」と決めた。

ところが1週間後、PTA会員の方々が我が家に来られて「やはり、広報紙は作りましょう」と言われ、「平日の昼間で集まりづらいのであれば、夜にしたり休日にするなど工夫をしてやりましょう」とテーマについても身の丈に合ったもので効率的に皆で楽しく取り組めるようにすれば、子供たちにも良い影響となるのではないかと、この日

動しているのに「くじ引き」で広報紙を引き受けることになってしまったこと、「大変だ」という思いが必ず、態度として出てしまいが、そんな保護者の姿を子どもたちが見たら教育上良くないのではないか、子供たちにとってマイナスなことをしてはいけなく、強く感じました。そういう思いから、今年には広報紙は作らない」と決めた。

皆様におかれましては「子供たちの健やかな成長」その一点でPTA活動に汗を流しておられるのです。これからは、私たち歳を重ねていくことで、この日



永岡文部科学大臣より表彰状を受ける熊本県玉名市立滑石小学校PTA

第44回全国小・中学校PTA広報紙コンクール表彰式

令和4年度に実施した「第44回全国小・中学校PTA広報紙コンクール」には、全国の小学校・中学校・小中一貫校PTAより合計3345点の作品のご応募を頂き、2次審査、3次審査、最終審査を慎重かつ厳正に行い、各賞および佳作を決定致しました。

「文部科学大臣賞」した。文部科学大臣小学校PTAの部に、おいて、東京都世田谷区立烏山北小学校PTAの「からきた」が受賞、中学校PTAの部では、さいたま市立八王子中学校父母と教師の会の「さいたま八王子」が受賞し、表彰されま



藤江総合教育政策局長より表彰状を受ける世田谷区立烏山北小学校PTA

- 中学校PTAの部  
香川県立高松北中学校・高等学校PTA

- 佳作  
小学校PTAの部  
北海道札幌市立円山小学校父母と先生の会  
青森県青森市立泉川小学校父母と教師の会  
神奈川県横須賀市立校小学校PTA  
横浜市立幸ヶ谷小学校PTA  
名古屋市立東山小学校PTA  
富山県富山市立光陽小学校PTA  
大阪府豊能町立東能勢小学校PTA  
島根県松江市立八雲小学校PTA  
広島県府中町立府中小学校PTA  
佐賀県武雄市立橘小学校育友会

- 中学校PTAの部  
千葉県習志野市立第七中学校PTA  
神奈川県綾瀬市立城山中学校PTA  
岐阜県大垣市立赤坂中学校PTA  
大阪府立野田中学校PTA  
鳥取県三朝町立三朝中学校PTA  
鳥取県北栄町立北条中学校PTA  
島根県松江市立八雲中学校PTA  
北九州市立足立中学校保護者教師会  
長崎県松浦市立御厨中学校PTA  
大分県国東市立安岐中学校PTA

- WEB版日本PTA全国協議会 会長賞  
大阪府高槻市立川西小学校PTA

# 山形大会

第70回 日本PTA全国研究大会 山形大会  
第54回 日本PTA東北ブロック研究大会 山形大会

『人とひとのつながりを体感しよう』  
～あがらっしゃい精神の山形から～

## 全体会 記念講演・記念演奏会 報告

令和4年8月26日(金)・27日(土)、現地開催として3年ぶり、山形県での開催が29年ぶりとなる日本PTA全国研究大会が全国各地から約6500人が集い盛大に開催されました。

## 「おもてなし精神」あふれる 全体会でのアトラクション！

「人とひとのつながりを体感しよう！」～あがらっしゃい精神の山形から～  
神の山形からくをスローガンに、第70回日本PTA全国研究大会・山形大会が山形県内各地を会場として開催されました。

8月26日(金)は、山形市を中心に新庄、酒田、寒河江、天童など山形県内各地において分科会が開催され、それぞれ「家庭教育」「学校教育」「地域連携」「人権教育」「広報活動」「情報教育」「社会教育」「環境・安全」をテーマに八つの分科会と二つの特別分科会を加えた10分科会が開催されました。

27日(土)に開催された全体会では、「山形の方言」あがらっしゃい「は」ごうでいらしてください「どう」おもてなしの言葉と「い」から「おもてなし精神での素晴らしいアトラクション」で始まりまし。

山形県を代表する一級河川の最上川は一つの県を流域とする国内唯一の河川であり、その最上川を囲むように神聖な山々がそびえる地形は山形県特有の景観にあふれています。その地形から山中で修行をする者も多くいたという山形県を象徴するかのよう山伏が無病息災・家庭円満を願う「ほら貝」を吹きながら登場。その後、日本レコード大賞で企画賞を受賞された朝倉さんやさんの庄巻の「民謡」に、躍動感あふれる高校生の演舞「徳内ばやし」、山形大学生による「花笠踊り」と続き、参加者を迎えるおもてなし精神に感銘させられるオープニングでした。

## 「人とひとをつなぐ大切なもの」を テーマに飯森範親氏による記念講演



飯森範親氏による記念講演

感銘を受けられ現在も実行されているといっています。

続いている記念演奏会では、オーケストラの中心である指揮者は一本のタクトで演奏者一人ひとり、聴衆者一人ひとりを見えない糸でつなぎ、曲の感情を豊かに表現する存在である心掛け、常に大切にしているのは「人とひとのつながり」であるとし、「オーケストラをはじめ山形の良さを

縁があつて山形の小さな公民会館で指揮を執り、その時の山形県民の「あがすけ」しない(出しゃばらない・自慢しないという意)という特性に心引かれて、今に至るという指揮者の飯森範親氏。その飯森氏の「あがらっしゃい精神」の根本は、ご両親の「感謝の気持ちを持つだけではなくて、口に出すこと。おれを言われて嫌な気持ちになる方はいない」との言葉に



開会あいさつをする金田会長



庄巻の「民謡」を披露する朝倉さん

他県に紹介しようと全国で山形交響楽団の名前を背負って頑張っている。このコロナ禍を乗り切るために人とひとのつながりを大事にしたい。そして人に対する感謝の気持ちを大切にしていきたい。この話をこれからの生活に役立てていただけたらありがたい」と締めくくり、山形交響楽団オーケストラによる演奏会が行われました。

|                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ■分科会の内容                                                                                                                       |
| □ 第1分科会「家庭教育」：村山市民会館(村山市)<br>迷わない子育てはない！子育ての悩みを共有できるPTA活動～子育ての悩みを一人で抱え込まないためのPTAの役割～<br>鈴木一作 氏(鈴木眼科 院長、さがえ絵本読み語りの会 代表)        |
| □ 第2分科会「学校教育」：酒田市民会館希望ホール(酒田市)<br>地域とつながる学校教育<br>～子供たちの未来のために学校とPTAが共にできること～<br>永田繁雄 氏(東京学芸大学 特任教授)                           |
| □ 第3分科会「地域連携」：新庄市民文化会館(新庄市)<br>郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる人材を育てるPTA活動とは～未来を切り拓く子供たちの心の育成を考える～<br>渡部泰山 氏(東北芸術工科大学 基盤教育研究センター 教授)      |
| □ 第4分科会「人権教育」：長井市民文化会館(長井市)<br>子供たちの人権尊重と、人権感覚の涵養<br>～他者と協働し、豊かな人生を切り拓くために～<br>久保順也 氏(宮城教育大学 教授)                              |
| □ 第5分科会「広報活動」：高畠町文化ホールまほら(高畠町)<br>広報活動による家庭・学校・地域のつながりを求めて<br>～特色を生かした新たな広報活動を考える～<br>佐藤恒平 氏(地域振興サポート会社まよびが企画 代表)             |
| □ 第6分科会「情報教育」：伝国の杜置賜文化ホール(米沢市)<br>デジタル社会におけるITCの有効な活用の仕方<br>～デジタル化でつながる学校と家庭～<br>葛西紀明 氏(ジャンプスキー選手・監督)                         |
| □ 第7分科会「社会教育」：鶴岡市民文化会館荘銀タクト鶴岡(鶴岡市)<br>子供のために自ら学び・動くPTA<br>～社会教育の担い手として～<br>生重幸恵 氏(NPO法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長)                  |
| □ 第8分科会「環境・安全」：寒河江市市民文化会館(寒河江市)<br>悩みに気づき、相談される関係性をつくる<br>～子供たちを見守るために必要なものとは～<br>木村泰子 氏(大阪市立大空小学校 初代校長)                      |
| □ 特別第1分科会「日本PTA担当」：天童市市民文化会館(天童市)<br>「令和の日本型学校教育」を支援するPTA活動<br>～持続可能な社会の担い手の育成を目指して～<br>木村貴志 氏(Vision&Education, Ltd.代表取締役社長) |
| □ 特別第2分科会「文部科学省協力」：やまぎん県民ホール(山形市)<br>メディア・リテラシー育成における学校教育と家庭教育の役割<br>～子供たちへのメディア・リテラシー教育を考える～<br>佐藤和紀 氏(信州大学教育学部准教授)          |

## 事務局運営に協力いただいた方からひと言



第5分科会  
田代 近子 さん

「子供は地域の宝だ」というのが私どもの地域の方針でもあることから、自分自身ができることをやっていたという思いでPTA活動に参加させていただいています。今回、事務局として参加させていただいたことで多くの方との交流が持てたことが本当にうれしく思います。運営側は大変なのですが、もっと身近にこのような機会が多くなれば素敵だなと思っています。



特別第1分科会  
門間 淳一 さん

今回はコロナ禍にあつて開催すること自体に苦労しました。私は教員なのですが、学校という枠組みだけではなく地域で子供たちを支えていくということが素晴らしいことだと思っています。全国大会でもなれば規模が大きく運営も大変なので、今後は効率的な方法での取り組みができればとも思っています。



全体会事務局  
佐藤 静子 さん

コロナ禍の影響で開催そのものが危うい状況でしたが、コロナ対策を徹底の上で開催すると決定されたことに感動しました。「歩みを止めないことが大切だし、その活動をされているPTAは素晴らしい団体だと思います。日本最大の社会教育団体として各地域に情報発信していただいている全国協議会に感謝しています。

## 次期開催予告

第71回 日本PTA全国研究大会 広島大会  
第53回 日本PTA中国ブロック研究大会

令和5年8月25日(金)、26日(土)

大会  
スローガン

変化の時代に向け、PTA自身が学びの変革を！  
～見つけ 考え かわろうや ぶち楽しいで!! ～ 広島から全国へ

支援チームの結成などの取り組みが進んでいます。  
その広島の地での本大会は、これからのPTA活動を「できない」ではなく「できること」は何かを見つけ、対策を考え解決していくようにし、どのような状況でも私たちPTAは、家庭教育力をさらに高め、次代を担う子供たちを社会総掛かりで育成するために、当事者意識をしっかりと持ち、家庭・学校・地域をつなぐ唯一無二の存在という役割を、改めて再認識する場になっています。

また、これらの社会情勢や家庭教育・学校教育・社会教育を取り巻く現状を踏まえつつ、不確実な激動の未来を生き抜く力「学びの変革」を柱に開催致します。全国のPTA会員一人一人の考えや価値観、体験を共有し、自分のものとして地元を持ち帰っていただくためにも、今までの知識や経験の上に立ちつつ、今後の激変する時代に対応できる学習力・判断力・実行力を兼ね備えたPTAの創造を、本大会を通して共に考えていきたいと思います。



山形大会での広島大会アピール



広島大会  
シンボル  
マーク  
広島県PTA連合会  
会長 山本 浩司

## ■分科会予定会場

|                                                   |
|---------------------------------------------------|
| □ 第1分科会 家庭教育<br>安芸府生涯学習センター<br>くすのきプラザ            |
| □ 第2分科会 学校教育<br>東広島芸術文化ホールくらら                     |
| □ 第3分科会 地域連携<br>リーガロイヤルホテル広島                      |
| □ 第4分科会 人権教育<br>広島ガーデンパレス                         |
| □ 第5分科会 広報活動<br>福山ニューキャッスルホテル                     |
| □ 第6分科会 防災教育<br>呉阪急ホテル                            |
| □ 特別第1分科会 日本PTA担当<br>リーガロイヤルホテル広島                 |
| □ 特別第2分科会 文部科学省協力<br>ホテルグランヴィア広島                  |
| □ 全体会<br>8月26日(土)<br>会場：広島県立総合体育館<br>(広島グリーンアリーナ) |

# 日本PTAブロック研究大会が7ブロックの各地で開催！

コロナ禍にあって、各7ブロックがさまざまな工夫を凝らすことにより3年ぶりの開催が実現することになった全国7箇所での日本PTAブロック研究大会。オンライン配信やハイブリッド形式など新たな試みが、開催に当たって大きな成果を上げることができた令和4年度の日本PTAブロック研究大会となりました。

## 第69回日本PTA北海道ブロック研究大会

### オホーツク北見大会

分科会／10月8日（土） オンライン配信  
全体会／10月9日（日） 北見市民会館・ハイブリッド形式



主催者あいさつをする菊川哲平 大会長

第69回日本PTA北海道ブロック研究大会が「Well-being（ウェルビーイング）」をテーマに、夢・未来を拓く子供たちの幸せのために、大会スローガンとして10月8日よりオンライン開催、10月9日にはハイブリッド開催という形で、全道各地のPTA会員が参加されました。

「コロナ禍が収束していない状況の中、どのような手法で開催するべきかを、主管のオホーツク北見大会実行委員



開催宣言をする 吉田哲 実行委員長

会と主催の北海道ブロック協議会役員とギリギリまで話し合いを続けた結果、どのような状況であったとしても「前に進む」ということを決定し、このような形で開催することができました。3年ぶりに開催できて本当に良かったというお言葉なども頂き、準備をしてきた実行委員会メンバー一同、多くの感謝と満足のい

### ■分科会テーマ

- 第1分科会 組織・運営  
PTAとコミュニティスクール  
～地域とともにある学校づくり～
- 第2分科会 家庭教育  
コロナ禍における家庭教育の重要性  
～子供たちの永遠の応援団として～
- 第3分科会 学校支援  
コロナに負けるな！  
～子供たちに楽しい学校生活を～
- 第4分科会 地域連携  
家庭、学校、地域が連携し、未来を担う子供たちを育てるために  
～笑顔で子供たちと接するために～
- 第5分科会 食育  
食育でつながる地域と学校
- 特別第1 北海道中学生討論会  
自分たちが幸せになるためのまち作りとは？
- 特別第2 地域独自のテーマ  
地域スポーツを生かした児童生徒の体力向上と運動習慣の定着  
～カーリングを通じてのwell-being～

## 第54回日本PTA関東ブロック研究大会

### 山梨大会

分科会／10月15日（土） 県内7会場  
全体会／10月16日（日） 河口湖ステラシアター



「甲斐◇風林火山」による勇壮な演舞

オープンングアトラクションの「甲斐◇風林火山」による勇壮な演舞で始まった山梨大会の全体会では、イベルメクチンの発見・開発者でありノーベル医学・生理学賞受賞者の大村智理学博士による記念講演が注目を集めました。「私の科学と社会貢献」と題した講演では、自己の生い立ち、青春時代、そして祖母・両親の教え、さまざまな恩師との出会いを通しての自身の成長を中心に、自分

を奮い立たせた「言葉」を添えて講演されました。



明治生まれの祖母の教えから始まり、教員をされていた母親の言葉、そして、進学した山梨県立韮崎高等学校の校訓「百折不撓」（どんな困難にあっても志を変えないこと）が自分に与えた影響についてや山梨大学での恩師との出会い、東京都立墨田工業高等学校の教員時代、そして、東京理科大学大学院時代についてのお話があり、その中でたくさん自分の影響を与えた言葉として、至誠惻怛（山田方谷）金を残して死ぬ者は下だ、仕事を残して死ぬ者は中だ、人を残して死ぬ者は上だ（後藤新平）、お金がないから何もできないという人はお金があっ

### ■分科会テーマ

- 第1分科会 組織運営【連】  
地域と共に歩むPTA 未来を見据えた組織運営の在り方
- 第2分科会 地域連携【携】  
地域コミュニティーにおけるPTA活動の在り方～子供たちの健やかな成長をめざした地域社会活動の推進役として～
- 第3分科会 家庭教育【継】  
子供たちの未来のために～世代を超えて心をひとつに…今こそ！音楽の持つその力に～
- 第4分科会 安心安全【知】  
自然災害に対する安全について考えよう～富士山の火山災害から子供を守るPTA活動～
- 第5分科会 国際理解【共】  
子供たちがこれからのグローバル社会を生き抜く力を身に付けるために学校・家庭・地域として何ができるのか
- 第6分科会 健康食育【つなぐ】  
食でつながるからだ心～食べることが育でつながる心～
- 第7分科会 情報モラル【情報】  
ネット社会を賢く生きるための情報モラル～持たせる責任 持つ自覚～



祝辞を述べる 玉城デニー 沖縄県知事

### ■分科会テーマ

- 第1分科会 組織・運営【未来】  
地域と連携したPTAの組織・運営の在り方  
1、危機的状況時における地域連携の組織・運営  
2、状況変化に対応した未来へつなぐ組織・運営
- 第2分科会 家庭教育【新しいカタチ】  
「親子で考える」予測困難な社会を生き抜く生きる力  
1、固定概念を打破する新しい学びの場  
2、新生活様式に対応した家庭環境作り
- 第3分科会 学校教育【協働】  
未来につなげるための学校とPTAの協働活動  
1、ポスト・コロナの視点で学びと育ちをとめないPTA活動  
2、子育てに関わる親・大人を誰一人取り残さないPTA活動
- 第4分科会 人権・環境【明るい社会】  
子供たちの人権意識を高める活動  
1、子供たちの人権意識を高めるPTAの活動の在り方  
2、学校と家庭が連携した情報モラル教育の推進方法
- 第5分科会 広報・地域連携【発信と連携】  
魅力ある広報活動を通じた「学校・家庭・地域」の連携による社会教育の推進  
1、魅力ある情報発信とは  
2、生活環境および時代の変化に即した学校と地域の在り方
- 特別分科会 シンポジウム【命】  
持続可能なPTA活動  
1、広い視野で物事を捉え、目標達成を図るPTA活動  
2、「命を守る」ことを意識したPTA活動



対話の重要性を訴える 金田 淳 会長

現在、お笑いだけでなく映画監督としても、世界各地の映画祭において受賞するなど多彩な才能を発揮されているゴリさんだけに奥の深い子育て論が繰り広げられました。



「ワッツアップアケミダンスクール」の子供たちによるダンス

彩を放つ「久保田青年会」によるダイナミックな踊りが参加者を魅了しました。

続いて、日本PTA全国協議会の金田淳会長の祝辞では、コロナ禍の影響を受け試行錯誤しながら取り組んできたオンラインによる事務的な「会話」ではなく、リアルな対面によるコミュニケーションが生む心の通じ合う「対話」の重要性が訴えられました。



「久保田青年会」によるダイナミックなエイサー

## 第67回日本PTA九州ブロック研究大会

### おきなわ大会

分科会／12月17日（土） 県内6会場  
全体会／12月18日（日） 沖縄アリーナ

まさしく、「おきなわ大会らしい演出が随所に散りばめられた」第67回日本PTA九州ブロック研究大会となった本大会は参加者に沖縄ファンを多く誕生させたと思われます。

分科会においても、琉球古武術の棒術を披露するアトラクションや沖縄で生まれた癒やしの弦楽器琉球かれんの演奏で迎える会場などもあり、沖縄色あふれる大会となりました。

テーマに開催される「第67回日本PTA九州ブロック研究大会」であり、九州地区におけるPTA活動がさらに活発に行われることに期待すると述べ

城デニー 沖縄県知事が来賓祝辞として、コロナ禍の影響などにより人間関係が希薄化する中「ひろげ・つなぐ・未来へのリレー」をテーマに開催される「第67回日本PTA九州ブロック研究大会」において、茶の間でおなじみのガレッジセール・ゴリさんが持ち前のユーモアを交えて講演されました。

記念講演では、「ガレッジセール・ゴリと考える『子育てとは？』」と題して、茶の間でおなじみのガレッジセール・ゴリさんが持ち前のユーモアを交えて講演されました。

第78回日本PTA東海北陸ブロック研究大会  
名古屋大会

分科会／9月30日(金) 名古屋国際会議場内各会場  
全体会／10月1日(土) 名古屋国際会議場センチュリーホール

「子供たちの未来、学校の未来PTAの未来」をテーマに、みんなで新しいPTAを大会主題に開催された名古屋大会。全体会では、日本最大級の踊りの祭典「にっぽんご真ん中祭り(通称:どまつり)」から、「夜宵」が登場し、名古屋大会のオープニングを華やかに飾りました。

大会長を務めた高橋功会長から、「分かち合う」という意味の名古屋言葉「もーやっこ」の精神でPTA活動ができるよう継続して発信していきたいとの主催者あいさつの後、PTA活動における功労者への表彰式が行われました。



主催者あいさつをする高橋 功 会長

第48回日本PTA近畿ブロック研究大会  
神戸大会

分科会／10月26日(水)～11月7日(月) オンライン配信  
全体会／11月8日(火) 神戸ポートピアホテル・ハイブリッド形式

コロナ禍の現状にあっても、より多くの会員が参加できるようにとオンラインを活用して開催された第48回日本PTA近畿ブロック研究大会神戸



黒野寛馬さんの縄跳パフォーマンス

大会。全体会ではハイブリッド形式で開催されました。オープニングアトラクションで登場されたプロなわとびプレーヤーで世界チャンピオンの黒野寛馬さんのパフォーマンスでは、驚愕の縄跳テクニクが披露されました。その中でも五重跳びは、何回なわを回しているのかを数えようにもあまりにも速すぎて見え、思わず会場から歓声が上がりました。

分科会テーマ

- 第1分科会 組織・運営  
地域・学校と連携した育友会活動  
～つながる人・地域・過去と未来～  
コロナ禍によるPTAの変化に伴う連合会のあり方
- 第2分科会 生涯学習  
職の学習を通して ～地域産業でつながる現在・過去・未来～  
地域と共に生きる ～自然との共生～
- 第3分科会 人権学習  
人権と地域と私たちとー  
町ぐるみの人権活動、風化しない人権活動を「何北中学校ブロックPTA人権講演会」～小中学校PTAの「つながり」を基盤とした取組～
- 第4分科会 青少年健全育成  
[柏原市の青少年健全育成]  
高津小学校の誇り ～文楽学習とPTAとの関わり～
- 第5分科会 広報活動  
思わず見たいくなるPTAだより!!  
～コロナ禍で見えにくい学校&園生活を見える化へ～  
"ワクワクが伝わる"次世代の広報に向けて  
～児童主体で考え、保護者から挑戦する～



記念講演をする永松茂久氏



開会式の様子

茂久氏による記念講演では「繋げよう未来あした」への「きずな」をテーマに講演され「目の前にいてくれる人」に、いまでできることをする「フォーユー精神」の大切さの他、亡き母親の生きざまを通じて得られた教訓が、感動的な母親との対話などを絡めて語られ、会場内では目頭をハンカチで拭う参加者も多く見受けられました。

分科会テーマ

- 第1分科会 家庭との連携A  
小規模校ならではのつながり  
家庭で伝える「人・まち・学校」
- 第2分科会 家庭との連携B  
会員全員でつくる持続可能なPTA活動を目指して  
家庭とともに歩むPTA活動
- 第3分科会 学校との連携A  
「15歳の春」をめざした校区コミュニティ・スクールの歩み  
データで見るPTA改革
- 第4分科会 学校との連携B  
すべては出町っ子のために!!  
次代につなげ!萩山中PTA
- 第5分科会 地域との連携A  
「oneボランティア」で学校・地域とつながる  
育てる見守る目の多い学区
- 第6分科会 地域との連携B  
地域全体で子供を守り育てる活動をめざして  
学区を越えたつながり

わるーそもそも教育は何のため?」をテーマに記念講演をされた熊本大学准教授の苫野一徳氏は、「個別の学びが孤立しないよう教師や仲間と教え合ってもらったり、時には教えたり協働しながらの学び、学年を超えた学び合いという『学びの協働化』が必要」対話を通じた『最上位目標の合意』があれば学校もPTA活動も活性化されると訴えられました。



記念講演をする熊本大学准教授の苫野一徳氏

第52回日本PTA中国ブロック研究大会  
くらし大会

11月12日(土) 倉吉未来中心大ホール

「地域発!親も子も!みんなが持つ可能性!」をテーマに、くらし大会を開催されたくらし大会。



記念講演をする安井博志氏



祝辞を述べる金田会長

は、古くから打吹山を仰ぎ、その城下町として栄えた倉吉に伝わる天女と童子の伝説について、子供たちによる太鼓と笛の音で伝えていこうと誕生したという「打吹童子はやし」を中学・高校生を中心とした和太鼓LEGEND童が太迫力で演奏し、参加者を迎えました。



「和太鼓LEGEND童」の演奏の様子

「JOC日本オリンピック委員会ナショナルコーチの安井博志氏が登壇され、子供の可能性を伸ばすための向き合い方について語られました。世界のどこにいても最新の情報に触れられる現在、「知識は重要でなく、その知識をどう学びに変え、多様化するかどうかという能力が必要」と強調され、スポーツや勝負の世界では勝敗に目が行きがちだが、

実践発表

- ① とっとり子どもサミット～メディアとの理想的な付き合い方を考えよう～鳥取県PTA協議会・鳥取県子供のインターネット利用教育啓発推進協議会
- ② げんき! えがお! のせきがねっ子 ～地域との繋がりでこれからの関金～倉吉市立関金小学校PTA
- ③ 紡ぐ、ふるさと愛♡地域とともに育つ北条っ子!! 北条町立北条小学校PTA

記念講演

「子どもの可能性を伸ばす保護者の向き合い方」～ティーチングからコーチングへ～  
講師/安井博志氏

第51回日本PTA四国ブロック研究大会  
愛媛大会

10月22日(土) 愛媛県武道館主道場



PTA活動の重要性を訴えたシンポジウム



記念講演をする秋川雅史氏

「愛の手で未来を築くPTA」をテーマにしたシンポジウムには、愛媛大学大学院教育学研究科教授をコーディネーターに迎え、教育関係者とPTA経験者が登壇し、PTAが子供や学校のために活動することにより、誰の幸せにつながるのかわからないかと、PTA活動の重要性



愛媛県武道館の入口

を訴えました。記念講演として登壇されたテノール歌手の秋川雅史氏は、「夢のある人生」と題し、常に夢を持ち続けることの大切さを語られた後、素晴らしい歌声も披露して頂きました。



西条市立西条北中学校合唱部

シンポジウム

- テーマ/考えよう!子どもたちの幸せを拓くPTAのあり方
- コーディネーター  
愛媛大学大学院教育学研究科教授 露口健司氏
- シンポジスト  
伊予市立佐礼谷小学校校長 中尾治司氏  
四国中央市男女共同参画推進ネットワーク会議TOMONI 宮崎恵氏  
NPO法人U.grandmaJapan代表理事 松島陽子氏

# 子どもの経験・可能性広げる

## 室伏氏 学校単位での実施に限界

### 改革の狙い

——これまで国として取り組んできた中学校の運動部活動改革について、取り組み理由と狙いをお話ください。

室伏 部活動はこれまで、生徒の自主的、主体的な活動を通して責任感や連帯感を育てることに貢献するなど、学校教育の中で取り組んできた歴史があります。その一方で現在の少子化により、学校単位で行っていくことが厳しくなっています。教員の意思や専門性にかかわらず顧問を務める体制に關しても、このまま続けていくのは難しいです。

これまでの方法でうまく進

ちが生涯を通してスポーツを楽

んでいる学校や地域もあります。が、10年20年の長い単位で考えるところで実施できなくなる状況になってしまっています。将来のことを考えて、われわれは今、決断し、課題解決に向けて取り組んでいく必要があります。

そこで、スポーツ庁としては、これを契機に地域全体でスポーツを行っていたきたい、スポーツキャンプなどを含む体験型の地域を超えた社会活動として多様なスポーツを経験するチャンスにしていきたいと考えています。

そして、中学校の部活動を地域に移行することで、教育的な理念はより良い方向に向かいながら、持続可能な形で子どもた

が、一つの契機になりました。運動

学校を取り組んできた中学校の運動部活動改革を受け、中学校現場で取り組んできたこと、現在実施していることを紹介してください。

平井 学校現場としては、平成30年3月にスポーツ庁から運動部活動の在り方に関する総合的なガイドラインが示されたこと

## 室伏氏 人生通じスポーツに親しむ

### 今後の方向性

室伏 学校によって課題の有無、濃淡があるという話がありました。その時点で学校間に差が生まれてしまっています。ここ最近

——運動部活動改革の狙いでの話を受けて、今後の中学校の運動部活動の在り方、地域移行を含めた改革の方向性についてお話しください。また、スポーツの普及についてご自身の思いを聞かせてください。

約10年で全国の公立中学校が700校程度減少していることを考えれば、今後はこれまで以上に学校単位でチーム競技に取り組む、大

部活動の方針や活動計画の策定などを通して学校として部活動の在り方を再認識する機会になったと思っています。

特に大きかったことは適切

な休養日等の設定です。これまで、部活動指導に熱中するあまり、毎日活動するという顧問教員もおり、それによって子どもたちが疲弊するというこ

ともありました。それが、このガイドラインをきっかけに顧問教員の意識が変わり、効果的で効率的な指導を目指す方向に転換したのは事実です。

ガイドラインでは、合同部活動等の取り組みの推進が示されましたが、この時点で

は、この時点で、拠点校方式ではなく、部員が少なく単独ではチーム編成ができない学校同士が合同チームで大会に出るというレベルの認識

でした。ただし、部員が少ない学校同士でないとは合同できないという状況でした。そのため、他の部の生徒の応援を得るなど、自校の中で工夫しながら取り組みを進めた学校もあります。そして、何よりも、昨年6月に取りまとめられた運動部活動の地域移行に関する検討会議提言の影響が大きいです。目指す姿や改革の方向性が提示され、3年間の改革集中期間が設定されたことが推進力になっており、国の本気度も感じています。

室伏長官がおっしゃった「将来のことを考えて今、決断し、課題解決に向けて取り組んでいく必要がある」ということはその通りです。昨年11月にスポーツ庁が公表した実践研究事例集も活用しながら、各自

治体が実情に合った取り組み

会に出場することが難しくなっています。こうした状況の中で、地域移行により課題を解消していくことが求められます。

また、中学校の3年間だけを考えるのではなく、生涯を通してスポーツに親しむという観点も求められます。中学校の運動部活動の多くは3年生の夏までに部員全体が引退し、その後は

高校入学まで体育の授業以外で運動をしない人がほとんどです。それが習慣とな

り、高校では部活動に入らず運動をしなくなってしまう人もいます。

を探して改革を実施し、子どもたちの学校外での活動の場を持続的に保障する形をつくってほしいです。

——国が進める中学校の運動部活動改革、これを受けた中学校現場の取り組みについて、保護者の立場から考えを聞かせてください。

金田 保護者の立場からすると、部活動改革、特に地域移行に対する理解は進んでいないと思います。「メディアを通して何となく聞いているが、学校からの細かい説明はない」という状況です。そうした中でも、日本PTA全国協議会では、昨年7月に室伏長官をお招きした研修の場を設けるなど、地域移行についてしっかりと理解した上で学校と共に進んでいくという気持ちでいます。

金田 保護者の立場からすると、部活動改革、特に地域移行に対する理解は進んでいないと思

るように地域全体で取り組んでいくことが大事であり、そこに部活動が地域に移行するメリットの大きさや可能性を感じています。

私自身は子どもの頃、放課後、父が教員をしていた大学に遊びに行き、陸上競技などさまざまなスポーツを体験させてもらいました。

アメリカにいた時には、地域の公園で多様なスポーツを行える環境があり、そこでテニスやゴルフに取り組みました。そこには専門のコーチが在籍していて、指導を受けることができました。専門家に教わると上達も早く、その競技をするこ

とがより楽しくなります。そうした子どもの頃の経験は大きく、日本でも各地域でいろいろなスポーツを体験できる環境も求められる

と聞いています。

私が経験したような環境があれば、人生を通して継続的にスポーツを実施できますし、世代を超えて一緒に活動することができま

す。例えば「小学校6年生と中学校1年生」のような年齢に応じた枠組みのチームをつくったり、人数が少なければ小学校6年生から高校1年生でチームを組んだりするよう、学校段階の枠を超えた取り組みが出てきてほしいです。中学生が親子で一緒にスポーツをして、家族での時間を大切にすることも重要ではないでしょうか。

中学生全員が、本格的に競技スポーツを行うわけではありません。レクリエーショナルにスポーツを楽しむことも大切なことです。

各学校の部活動の状況は、大規模校と小規模校で異なります。生徒数が多く問題なく部活動を実施できている、充実した活動を行うことができてい

る学校の保護者は、移行の理由が分からないところもあります。逆に生徒数が少ない学校の保護者からは、部の数が少なく子どもが好きな競技ができない」「それがさらなる生徒数減少を招き、今度は部活動が成り立たなくなる」という状況の中で、地域移行により子どもたちに平等な機会を与えられるという話も出てきています。

こうしたことから、まずは保護者の皆さんにきちんと情報を伝えた上で理解を深めてもらうことが求められており、それに対して私たちPTAも全力で取り組んでいくと思います。

と聞いています。

私が経験したような環境があれば、人生を通して継続的にスポーツを実施できますし、世代を超えて一緒に活動することができま

す。例えば「小学校6年生と中学校1年生」のような年齢に応じた枠組みのチームをつくったり、人数が少なければ小学校6年生から高校1年生でチームを組んだりするよう、学校段階の枠を超えた取り組みが出てきてほしいです。中学生が親子で一緒にスポーツをして、家族での時間を大切にすることも重要ではない

でしょうか。



スポーツ庁長官

室伏 広治 氏

### スポーツ庁・中学校・PTA

## 新春座談会

日本教育新聞より転載

中学校の部活動改革が加速している。スポーツ庁が設置した「運動部活動の地域移行に関する検討会議」は昨年6月に提言をまとめ、令和5年度から3年間で「まずは、休日の運動部活動から段階的に地域移行していくことを基本とする」という方向性を打ち出した。4月から、地域移行への動きが本格化する。新年に当たり、室伏広治・スポーツ庁長官、平井邦明・全日本中学校長会会長、金田淳・公益社団法人日本PTA全国協議会会長に「中学校の部活動改革 国、学校、保護者の取り組み」をテーマにスポーツ庁内で議論してもらった文中（敬称略）。

（司会）渡部秀則・日本教育新聞社編集局記者

# 部活動改革、地域移行が本格化

## 平井氏 専門家の指導で二層面白く

——学校現場としては今後の  
中学校の運動部活動の在り方を  
どのように考え、地域移行を含  
めた改革をどう進めていきたい  
と考えていますか。

平井 小規模校では教員数も  
少なく、部活動を維持すること  
が難しい状況です。また、顧問を  
務めていた教員が異動すると、  
その部が廃部になることもあり、  
持続性という点での厳しさも  
あります。小学生には「中学生  
時代に部活をやりたい」という  
強い気持ちがあります。入学後  
に入部希望の部がなくなってい  
ると、「この部があると思ったの  
に」という残念な思いを持たせ  
てしまつたため、一つの部を廃部  
にすることも難しいです。

中学3年生が最後の大会、最  
後のコンクールが終わると引退  
し、そこで取り組んできた活動  
が途切れてしまうことも確かだ  
す。保健体育の時間だけしか運  
動しなくなり、高校入学時に「部  
活動の引退前が一番のピーク  
だったよね」という状況になっ  
てしまうこともあります。

もし、地域で自分の取り組み  
たい活動ができる環境があれば、  
受験勉強をしながらも活動を  
継続していくことができる



全日本中学校長会会長  
平井 邦明 氏

## 金田氏 メリットの周知・広報に尽力

思います。その意味でも、スポー  
ツや文化・芸術活動を途切れず、  
持続して取り組んでいくとな  
る、学校の枠組みの中での実施  
は限界だろうと感じました。

室伏 先ほど私自身が子ども  
の頃、父が教員を務める大学に  
放課後遊びにいった経験につい  
て話をさせてもらいました。そ  
こではさまざまなスポーツを  
体験するとともに、大学院生と  
交流したり、実験室に入って手  
伝ったりもしていました。その  
ような経験をさせてもらったこ  
ともあり、私自身が研究者の道



日本PTA全国協議会会長  
金田 淳 氏

ですが、必ずしも  
そのように  
マッチングで  
きるわけでは  
ありません。  
インター  
ネットが発達  
する前、未経験  
競技の顧問を

に進むことになりました。  
こうした経験から、大学が受  
け皿となって子どもたちが一流  
選手の競技をする姿を見て学べ  
るような体験会を開催したり、  
研究室を開放して見学できたり  
するような取り組みを行うこと  
にも価値があると思います。

平井 専門の方から刺激を受  
けることは、いろいろなことが  
吸収できる中学生時代だからこ  
そ大きいと思います。それも、今  
の枠組みの中学校の部活動では  
厳しいところです。教員が自分  
の経験した競技や活動を指導で  
きればいいで

すが、必ずしも  
そのように  
マッチングで  
きるわけでは  
ありません。  
インター  
ネットが発達  
する前、未経験  
競技の顧問を

担当する教員は、本を買って練  
習メニューや指導方法を学んで  
いました。しかし、自分で取り組  
んだ経験がなく、動き方の「こ  
つ」や安全性の部分が分からな  
いまま指導していたため、いろ  
んな課題が生じていたことと  
思います。それは、教員にとって  
大きな負担です。何より子ども  
たちにあってマイナスです。

中学校教育の歴史の中で、学  
校は自己肯定感や連帯感の涵養  
など、部活動の効果に頼ってき  
た部分があります。そのような  
部活動で得られた効果を他の教  
育活動で子どもたちに身に付け  
させたり、充実感や満足感を与  
えたりできる形にしていこうと  
できれば、中学校は大きく変  
わっていくと思います。

——PTA、特に保護者の立  
場として今後の中学校の運動部  
活動の在り方をどう考え、地域  
移行を含めた改革にどのように  
関わっていけばいいかについて  
考えを聞かせてください。

金田 いろいろな人がいるの  
は事実ですが、基本的に多くの  
保護者は学校に対して協力した  
い子どもに関わりたいたいと思  
っています。今回の部活動の地域  
移行についても不安の声はあり  
ますが、十分に周知することで  
理解が得られるのではないで  
しょうか。

その中で重要な点は、室伏長官  
の話にあった「地域に移行するこ  
とで子どもたちにいろいろなこ  
とを体験してもらいたい」という  
ことです。昨年7月の研修会でも  
こつした話を伺いましたが、各地  
方協議会の代表者たちの考え方  
が大きく変わりました。

都道府県や政令指定都市のレ  
ベルで部活動改革や地域移行の  
話をする、どうしても教員の  
働き方改革が前面に出てしまっ  
ています。保護者も「教員の働き  
方改革のために部活動を地域に  
移行するのか」という捉え方を  
する人が多いという話が聞か  
れます。そうした捉え方をさ  
れると、費用負担の面でも理解  
を得られにくくなります。

私の住む栃木県で県教委が教  
員と保護者を対象に調査を行っ  
たところ、教員は半分以上が「将  
来は地域で実施すべき」「保護者  
は6割以上が「学校教育の一環  
として実施してほしい」という  
結果が出ました。

す。文科省と協力して「令和の日  
本型学校教育」「コミュニティ・  
スクール」の動画を作りました  
が、スポーツ庁とも協力して「部  
活動の地域移行」の動画を作成  
できればと思っています。

——保護者への周知など、学  
校として取り組んでいく必要が  
あることなどについて、考えを  
お話しください。

平井 ほとんどの学校では移  
行が始まっています。在  
校生の保護者は地域移行につい  
てあまり意識していないと思  
います。そのため、小学4年生ぐ  
らいの児童や保護者に伝えてい  
かなければならないと感じていま  
す。現時点では平日の活動が学  
校に残っている状況ですので、  
中学校からのアピールは難しい  
ところがあります。

## 室伏氏 将来担う人材育成、地域で 平井氏 週末、教員が地元で 金田氏 保護者自ら理解を深めて

### 教育関係者への メッセージ

——特に中学校の運動部活  
動に関わる全国の教育関係者、  
地域のスポーツに関わる方に  
メッセージをお願いします。

室伏 地域には子どもたちが  
が学校では経験できない、さま  
ざまな活動の場があります。ス

ポーツは運動するだけではなく、  
一人一人が人生のテーマを  
持つとともに、国際的にも活躍  
できる人材をつくらなくてはい  
けません。間形成の役割も担っ  
ています。スポーツ、文化・芸術  
などさまざまな活動を通して、  
将来、社会に出て、多くの方の  
役に立てるような人材を地域で  
育てていくことが必要だと思  
います。

平井 学校部活動の地域移  
行について、中学校の部活動を  
「そのまま外部に出す」と考え  
てしまうと、変なことになる  
しまうのではないかと心配し  
ています。

現実として、部活動の顧問を  
熱心に務める教員ほど、地域移  
行を「学校の部活動をそのまま  
地域にシフトさせる」と捉えて

しまっているのではないかと  
思います。もう一度、「そうでは  
なく子どもたちの将来のため  
に必要な取り組み」ということ  
を正しく理解することが求め  
られています。例えば、平日  
の部活動が学校に残っている  
段階であれば、生徒が週末は地  
域で異なる種目に挑戦したり、  
文化・芸術活動に取り組んだり  
してもいいのです。

また、教員も自分の住んでい  
る地域があります。週末はそこ  
で、自分の力を発揮するという  
教員がいてもいいと思います。

金田 新しい取り組みを進  
めるには不安があり、進めてい  
く上では何らかの問題や修正  
が必要だと思っています。

しかし、今回は大きなビジョ  
ンが示され、自分自身の中でも  
それをしっかりとイメージす  
ることができています。これを  
皆さんと共有することで方向  
性を明確にして、子どもたちの  
可能性を広げるために取り組  
んでいきます。自分の子どもに  
関わることで、保護者が自分  
から主体的に情報を得て理解  
を深めていくことも必要だ  
と考えています。

自分から主体的に情報を得て  
理解を深めていくことも必要  
だと考えています。

## 各委員会ならびに諮問会議における情報について

## 広報企画編集会議

広報企画編集会議は公益目的事業4の広報活動を担当しています。主な役割としては、日本PTA全国協議会のWEBサイトの運用と、日本PTA新聞の発行へ向けての編集会議を行っています。

## ■過去の半年間における運営内容

令和4年度の改革案10項目の「発信力の強化」を担うため、日本PTA全国協議会の主要な活動の一つである各委員会の活動成果を、広くPTA会員の皆さまに活用

していただくための方法を検討してきました。また、日本PTA全国協議会の動きを伝えるために三役会と連動して「日プレポート」の運用もスタートしています。

日本PTA新聞に関しては、日本教育新聞社と業務提携し、紙面の編集会議を行ってきました。業務提携したことで新聞紙面としての質の向上が図られ、日本PTA全国協議会としては記事の内容に注力することができました。

■今後の課題について  
日本PTA全国協議会の活動も後半に入り、各委員会

等が予想されますので、WEBと日本PTA新聞を連動して「どう伝えるのか」ということを検討していきます。



広報企画編集会議 後藤豊郎 議長

等が予想されますので、WEBと日本PTA新聞を連動して「どう伝えるのか」ということを検討していきます。

また、日本PTA全国協議会のみならず全国の地方協議会の活動とその成果を伝えていくということが、日本PTA全国協議会としてのスケールメリットであると考えられますので、WEB企画として情報共有の場を用意することが必要だと感じています。

## ■課題に対する対応策

前記の課題を踏まえた上で、PTAでも持続可能な広報活動として最大限の成果を得るために、広報に関する意思決定のプロセスや情報共有の手段にICTツールを活用することで課題解決し、WEBサイト、日本PTA新聞ともにコンテンツの充実を目指して、「発信力の強化」を実現していきたいと考えています。

## 総合戦略会議

総合戦略会議の業務分掌は日本PTA全国協議会を総合的な観点からあらゆる対策や施策を協議・実施していくことであります。

## ■過去の半年間における運営内容

組織改革や業務改革を中心に取り組み、改革案10カ条の80万人の意見集約アンケートシステムの構築に注力してまいりました。

その第一歩として日本PTA意見集約アンケートを実施致しました。協議会代表者と協議会事務局長とにアンケートを分け、それぞれの立場からご意見・ご要望を頂きました。アンケートにご協力をいただきました皆様には御礼を申し上げます。

■今後の課題について  
日本PTA意見集約アンケート結果を見て、「日本PTAの活動が見えていない」「内容が理解されていない」と感じております。情報の共有化、認識の共有化、相互の意見交換など64協議会



総合戦略会議 吉村昌之 議長

日本PTAの動きを伝える「日プレポート」は、こちらからご覧ください。



## 令和4年度諮問会議進捗報告

本年度は三つのワーキンググループと一つのプロジェクトチームで会長の諮問に対し、議論を重ねています。本会議は日本PTA全国協議会の意思決定機関ではなく、諮問会議内で起草された内容を三役会等に諮り、公益事業等に資する諮問機関となります。

## ●教育問題ワーキンググループ

コミュニケーション・スクールについては全国の学校や自治体において設置や取り組みに差が見られ、そもそもコミュニケーション・スクールとは何かといった基礎・基本と併せて、先進的な取り組みを紹介できるような動画を作成しております。また、配慮や理解が必要な発達障害者についても、分かりやすい動画を作るべきか議論を重ねており、今年度中に公表できるよう準備しているところです。

## ●規定等ワーキンググループ

公益社団法人として日本PTA全国協議会の運営は定款に従います。さらに定款施行細則や各種法人運営に必要な規定は、法改正に対応する必要があります。そのため、都度柔軟な改廃が必要となります。本ワーキンググループでは、その整備を中心に会議を展開しています。

●防災等ワーキンググループ  
災害時におけるガイドラインは既に完成し、運用の段階



諮問会議 東川勝哉 議長

## ●日Pフロンディングプロジェクトチーム

日本PTAの役割や、教育に資する役割など広い観点から議論しています。子供たちを取り巻く教育環境をはじめとする今日的な課題を中心に据えながら、現在とこれからの在り方を議論しています。

## ●キャラバン事業

各ワーキンググループやプロジェクトチームの議論を踏まえ、本事業では64の協議会と日本PTA全国協議会のコミュニケーションの円滑化や胸襟を開いた情報共有を目的に、事業を起案中です。本年度後半から実施を目指します。

年 新 賀 謹

あけまして、おめでとうございます。

現代社会の予測困難な時代においても

すべての子供たちに「生きる力、学びのその先へ」と導くため、

本年も歩みを止めることなく進んで参りましょう！

公益社団法人 日本PTA全国協議会

